

1979



1988



1998



2008



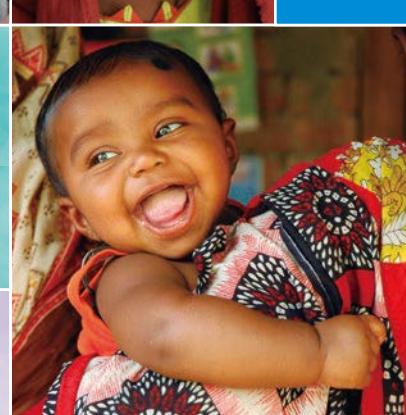
Thank you

40th

2018

1979年のパートナーシップ開始から今年で40年。
これまで70億円近くのユニセフ募金を
38の国や地域、世界の子どもたちに届けてきました。
みんなさんの「一食ユニセフ募金」を通じた真心は、
こんなにもたくさんの国と子どもたちに届けられ、
たくさん笑顔につながっています。

ありがとうございました。



グアテマラ



知ってる?

コーヒーが
有名な
グアテマラ



慢性栄養
不良って
治らない?
!

- 中米に位置するグアテマラ
- 人口の半分は先住民族
- 子どもの半数は慢性栄養不良。
「静かな緊急事態」と呼ばれます
- 詳しくは2017年版をご覧ください

「一食ユニセフ募金」のご浄財は、グアテマラの課題である慢性栄養不良を改善するために、「母乳バンク」、「助産師から妊婦へ」、「学校から子どもたちへ」、そして「C4D(開発のためのコミュニケーション)」の4つの柱で支援を行っています。今回は新生児の死亡率を減らす母乳バンクについてお伝えします!

グアテマラでは支援が必要な子どもたちがたくさんいます

すべての赤ちゃんが
元気に育つために
母乳バンクを
広めたい



生まれたばかりの子ども
に母乳をあげるための
指導をうけるお母さん



生後間もない
新生児とお母さん

病気への抵抗力が弱い赤ちゃんにとって、母乳は免疫力を高めてくれる理想的な栄養源です。特に産後すぐの初乳は、豊富な栄養と、細菌などから赤ちゃんを守るために免疫成分がたっぷり含まれており、「黄金のミルク」とも言われています。



母乳を提供する
お母さん

生後6ヶ月までは母乳のみの育児が理想ですが、様々な理由で続けられないケースもあります。その場合、赤ちゃんが栄養不良に陥り病気にかかりやすくなる危険が高くなります。母乳バンクでは母乳のたくさん出るお母さんが他の乳児のために母乳を提供しています。

低体重や緊急性の高い状態で生まれた赤ちゃんにこの母乳を与えることで、感染症予防、消化器官の強化に効果が期待されています。



集中治療室で治療を受ける赤ちゃんの
母乳バンクのミルクのおかげで回復に
向かうことが出来る



搾乳後検査、
殺菌などの処理を
施された母乳は
冷凍保存される

母乳バンクってなあに?

お母さんのおっぱいから出る母乳は子どもにとって命をつなぐための栄養源だけでなく、免疫を高め、下痢症や呼吸器感染症から子どもを守るために欠かせないものです。また、母乳で育った子どもは、そうでない子どもに比べて生存率が6倍も高く、完全母乳で育った子どもはそうでない子どもに比べて16倍も生存率が高くなることが調査でも明らかになっています。しかし、中には病気などの理由で母乳を与えられなかったり、十分な量が出ないケースもあります。母乳バンクは、産後、母乳がたくさん出るお母さんから必要としているお母さんへ寄付する仕組みです。



母乳バンクで保管されている母乳



赤ちゃんにやさしい病院 認定証

知ってる? 赤ちゃんにやさしい病院!

ユニセフと世界保健機関(WHO)は、母乳育児を中心とした適切な新生児ケアを推進するため、全世界で「赤ちゃんにやさしい病院」を展開し、長期にわたって母乳育児に積極的に取り組んでいます。《母乳育児を成功させるための10か条》を実践している病院のうち、認定審査に通過した施設を「赤ちゃんにやさしい病院」に認定しています。10か条にはスタッフ、および妊産婦全員が母乳育児のメリットと実践について十分に学んでいること、生後30分以内に初乳を与えるようにすること、完全母乳や母子同室などの厳しい基準をすべてクリアし、持続的に推進することが重要です。

どんな思いで活動しているの?

ある日母乳バンクで出会った女性は、13日前に出産したばかりで、母乳バンクに母乳の寄付に訪れていました。彼女はユニセフが「赤ちゃんにやさしい病院」に認定している病院で出産するために入院した際、スタッフから様々な知識を得て母乳を寄付しにきました。「母乳でもいろいろな段階の母乳があり、それぞれに栄養価や効果が違うこと、そして、「初乳」とよばれる特に早い段階の母乳が必要な子どもがいるということを知って、自分も協力しようと思いました。母乳をどのように注意して大切に扱っていかなければいけないか知ることは、とても母親として大切です。母乳も胸の中にいつまでもしまっておくといい状態を保てないので、きちんと循環させていく必要があることも知りました。自分の赤ちゃんにもいい状態の母乳をあげたいので、私にとっても大切なことです。」



母乳バンクに寄付をする女性

リベリア



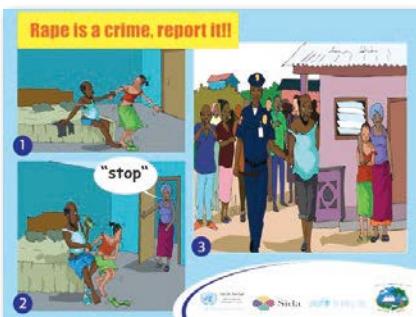
職業訓練で、 自分の明日を守れるように

西アフリカに位置するリベリアは子どもの生存率が低いこと、貧困率が高いこと、またジェンダーに基づく暴力が課題となっています。

2010年から支援しているリベリアでは、10代で結婚した女の子の自立支援、復学支援、また内戦やエボラ出血熱の影響で孤児となった子どもに対し、以下の柱で取り組んでいます。

- 宗教指導者へのジェンダーに基づく暴力、10代の妊娠の予防に関する研修
- 孤児への支援
- 10代の女の子の復学支援、心理社会ケア、ライフスキル研修、子育てのスキルの研修
- 子どもへの性的・ジェンダーに基づく暴力の事例の洗い出しと地域支援制度の確立

リベリアでは
このように
活動しています



©UNICEF/Liberia

「どうやったら子
どもたちを守れ
るか」

宗教者、地域の人、
ユニセフのスタッフ
で話し合い、地域
住民を巻き込んだ
ネットワークを作っ
ていきます。



「レイプは犯罪です。通報しましょう！」

と呼びかけるポスター。こういった資料の作成を通じて
日常生活の場面でのケースを喚起し、行動を促します。



ユニセフとIRCL(リベリア諸宗教評議会)によるオリエンテーション。あらゆる宗教の人たちが集い、子どもたちのために結束することを約束しました。



「自分たちのこととして問題を考えて
ほしい」

ユニセフとIRCLが研修した青年が同級生
たちとグループを作り、問題の提起や話し
合いの場を提供し、同世代同士による解決
を試みています。

一食ユニセフ募金がつなぐ女の子たちの輝く未来

マッサさんは生後6ヶ月の子どもがいる17歳の女の子です。彼女は母親や子どもを経済的に支える手立てではなく、子どもの父親であるパートナーも妊娠がわかると連絡がとれなくなり、マッサさんは学校を中退せざるを得ませんでした。

赤ちゃんに与える食事を買うのもままならない中、マッサさんは友達と一緒に道路脇の市場で日用品を売るしか方法がありませんでした。

そして、そこで脆弱な立場に立たされている若い母親のために活動しているウーマンオブフェイス(WoF)に出会い、子どもの保護強化プログラムに登録しました。

マッサさんと50人の女の子たちは6ヶ月の起業研修プログラムに参加して、パンの焼き方、売り方を学びました。研修と100米ドルの初期投資のおかげで、マッサさんはパンで生計をたてて、子どもと家族に食事を買うだけのお金はもらえるようになりました。「今、自分のビジネスからの利益で子どもの面倒を見ることができています。そして、いつか学校に戻れたときのために貯金もできています。」とマッサさんは話してくれました。マッサさんのような女の子たちは自分で意思決定をすること、10代の妊娠や児童婚から身を守ること、月経や衛生についての教育、基本的な子どもの権利、心理社会ケアおよび家族の保護について研修を受けます。

立正佼成会の皆さまの募金によって、ユニセフはリベリアの10代の母親となった女の子たちが学校に通い、自分たちで生計が立てられるように取り組んでいます。



©UNICEF/Liberia

娘に微笑みかけるマッサさん。
「娘には学校にきちんと
通ってほしい！」



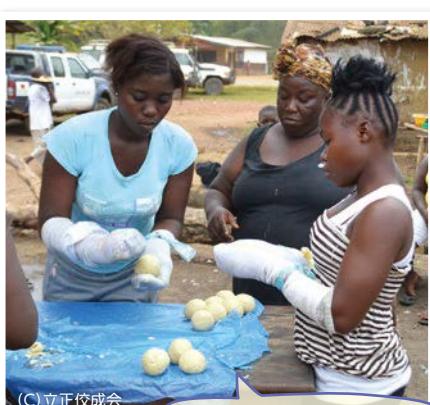
©UNICEF/Liberia

パンを仲間たちと
協力して作る。
同じ年代や境遇の女の子たち同士が集まることで、
お互いに励ましあいながら自立を目指す。



©UNICEF/Liberia

プログラムで教えて
もらったパンづくりの様子。
「手に職を得るだけなく、
自信を身につけられた
ことが嬉しい！」



(C)立正佼成会

WoFのクラスで石けんづくりの
クラスに参加する女の子たち

ウーマンオブフェイス(WoF)ってどんな団体？！

ウーマンオブフェイスは、「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフが支援している団体で、リベリア諸宗教ネットワークの女性グループです。

10代の母親や学校に通っていない女の子たちに地域でのサポートを提供しています。彼女たちが裁縫、石けんづくり、パンづくりを通じて、自立して、自分自身を搾取や虐待から守っていくようエンパワーメント(社会的地位の向上と能力強化)しています。また、彼女たちが学校に通えるよう、子どもを日中預かり、面倒を見る支援も行っています。

シエラレオネ



知ってる?

シエラレオネ



女の子の未来を守るために、 児童婚を終わらせる

「一食ユニセフ募金」のご净財は、児童婚や社会課題への対応と、保護者の行動変容を促すための宗教者教育に活用されています。

結婚じゃなくて、
学校にいきたい！

マリーさん(17)は先日高校を卒業し、ジャーナリストになる夢を叶えるために大学に進学する予定です。

しかし、マリーの両親が結婚をさせようとした時、彼女の未来は奪われそうになりました。「両親は私を結婚させたがっていたけど、私はそれがベストだと思えなかった。」

- 西アフリカに位置するシエラレオネ
- 児童婚の割合が高く、20~24歳の39%の女性が18歳より前に結婚
- 児童婚と10代の妊娠はジェンダー格差、貧困、伝統的な信仰、社会規範や成人の識字率の低さ、治安の悪さなど複数の要因が相まって高まる



©UNICEF Sierra Leone/2018/Mason



©UNICEF Sierra Leone /2018/Mason

マリーさんの自宅で話をするカマラさん

皆さんがあちこちで呼びかけてくださった「一食ユニセフ募金」によって、これまでに5000人の宗教指導者が、前向きな行動を促すためのメッセージを教会やモスクでの集会などで広めてきました。その効果もあり、イマーム(イスラム教の宗教指導者)のサリール・カマラさんはマリーの家を訪ねました。「マリーの家を訪ね、両親に児童婚の及ぼす悪影響と教育を受けさせることで得られる利点を伝え、とりわけ女の子が将来、成長していくにはエンパワーメント(社会的地位の向上と能力強化)することが大切であることを伝えました。」



教育の重要性について参加者に話を
するカマラさん

©UNICEF Sierra Leone/2018/Mason

他にも、こんなメッセージを
宗教指導者が広めています！



予防接種を受けて、予防できる病気から守られるように

母乳育児によって子どもたちが栄養と愛情をもらって育つように



©UNICEF/UN065193/Phelps

マラリアから子どもを守るため、寝るときは蚊帳のしたで寝るように



©UNICEF/UN072224/Phelps

©UNICEF/UN073040/Phelps

すべての子どもが
学校に通えるように



©UNICEF/Sierra Leone

手洗いをしっかりとして、子どもたちが健康にくらせるように



宗教のちからで、グローバル連携

世界では子どもの生存、教育、子どもの保護など様々な場面で宗教者とユニセフが協力して取り組んでいます。子どもにとってよりよい社会をつくるには、一番身近で子どもにふれる大人たちが問題に向き合い、解決に取り組み、垣根を越えて協力していくことが不可欠です。そして、世界中で保護者が耳を傾け、定期的に話し、行動を一緒にしているのが、宗教者です。ユニセフは、宗教者との連携をより強くするため、以下に取り組んでいます。

これまでどのような分野で、どのような取り組みが行われていたのか、整理する

みんなで意見交換し、みんなが共にめざす「方向性」を決める会議をする

実践を通して、取り組みを世界に広め、子どもを中心とした政策作りを呼びかける

ワークショップの開催

2018年7月、タイのバンコクにて、30の国と地域から116人が集い「社会と行動変容のための宗教・グローバルワークショップ」が開催されました。これまでの取り組みを整理し、各国の取り組みを共有し、課題と一緒に考えることで、共にめざす「方向性」を決めていくための会議です。会議には宗教者、ユニセフのスタッフ、政府関係者、NGOなどが参加し、それぞれが考える「社会と行動変容のための宗教の枠組み」について話し合いました。



宗教者の決意



シエラレオネ
モーゼス・カヌさん

シエラレオネは妊婦や子どもの死亡率が非常に高い国ですが、宗教リーダーによって、妊婦と新生児を育てるお母さんに積極的に病院に行かせるよう働きかけ、良い影響を与え始めています。保健サービスを受ける機会が増え、死亡率が少しづつ低下していっています。

さらなる成果を得るために、今以上に努力し住民と対話していくのが私の課題です。シエラレオネで今回のようなワークショップを開いて、今までの成果や課題をもう一度見直さなくてはならないと思います。これからも社会の行動変容に向けて、宗教リーダーとしての責任感を持って行動していきます。